

中 学 校

平成 2 2 年度

教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
	1 社会的背景	1
	2 生徒の実態	1
II	研究の構想・仮説	1
	1 論理的思考力とは	1
	2 研究の仮説	2
III	研究の方法	3
	1 研究構想図	3
	2 研究の内容・主題に迫る手立てや工夫	3
	3 仮説の検証	5
IV	研究の内容	6
	1 指導の実際	6
	2 説明的な文章の類型とその指導	13
V	アンケート結果	15
VI	研究の成果と課題	16

研究主題 論理的思考力を養う指導法の工夫

I 研究主題設定の理由

1 社会的背景

OECD（経済協力開発機構）のPISA調査から、我が国の児童・生徒については「①思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題」に課題が見られた。

また、改正教育基本法等を踏まえ、平成20年1月17日に示された中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」では、国語科の改善の基本方針として、「特に、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや、我が国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむことを重視する。」とある。

また、この答申を受けて告示された新学習指導要領では、改訂の基本方針の一つに「思考力・判断力・表現力等の育成」を挙げ、国語科の目標にある「思考力や想像力」については、「言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力」としている。

現代日本の学校教育に「論理的思考力」の求められていることが分かる。

2 生徒の実態

文部科学省の「全国学力学習状況調査」の分析からは、文章や資料を読んで示された条件にあった表現で書くことに課題があることが指摘された。また、中央教育審議会は「教育課程実施状況調査」の課題として、文章を深く読んで分析的に理解し、その上で論理的に記述する設問で正答率が低下していることを挙げている。

国語科の授業で読解の学習指導を行うと、接続語や指示語についての理解や、段落相互の関係についての理解が不十分であり、文章全体の要旨を把握することができない生徒がいる。

また、文章を構築していくとき、その根拠が不明確であったり、話の筋道が通っていなかったりすることもある。メールや携帯電話など、ある程度情報を共有している相手に対して「書く・話す」ことに慣れているために、文章に根拠となる説明が不足していたり、話の筋道を伝わりやすく組み立てることができていなかったりする傾向が見られる。

このように、現在の中学生の実態として「文章を分析的に理解する力」、「論理的に文章を構築する力」が十分ではないことが挙げられる。

II 研究の構想・仮説

1 論理的思考力とは

平成15年11月に文化審議会国語分科会によって示された「これからの時代に求められる国語力について」では、「考える力」を国語力の筆頭に挙げ、「【考える力】とは、分析力、論理構築力などを含む、論理的思考力である。」としている。また「【表す力】とは、考え、感じ、想像したことを表すために必要な表現力であり、分析力や論理構築力を用いて組み立てた自分の考えや思いなどを具体的な発言や文章として、相手や場面に配慮しつつ展開して

いくことのできる能力」としている。

ここでの「分析力」とは、「言語情報に含まれる『事実』や『根拠の明確でない推測』などを正確に見極め、さらに、内在している論理や構造などを的確に捉えていくことのできる能力」である。また「論理構築力」とは「相手や場面に応じた分かりやすく筋道の通った発言や文章を組み立てていくことのできる能力」である。

これらを踏まえ、私たちは「論理的思考力」を、段落の意味や役割、段落相互の関係、主張の一貫性や根拠の妥当性を分析する力（分析力）と、段落の役割を考えて話や文章を分かりやすく構築する力（論理構築力）と考えた。

2 研究の仮説

国語科の授業では様々な文章を読む。その中でも説明的な文章は、段落の意味や役割が明確で、段落相互が関係し合いながら文章全体を構成し、筆者の主張に一貫性、根拠に妥当性がある。説明的な文章は、論理的思考力を働かせて書かれたものである。

この説明的な文章を論理的に読み取るには、段落の意味や役割、段落相互の関係、主張の一貫性、根拠の妥当性などに注意して分析しながら読み進めることが必要である。また、論理的に文章を書くためには、文章中の段落の役割を考え、主張や根拠を明確にし、それを分かりやすい筋道で並べることが必要である。

文章を論理的に読んだり書いたりする際に大切なことは、「段落の意味や役割」、「段落相互の関係」、「主張の一貫性」、「根拠の妥当性」である。これらの四つについて学習を進める上での主な観点とし、読んだり書いたりすることで論理的思考力は養われると考える。

現在、国語科の授業の多くはまず読む指導を行い、その後を書く指導を実施している。教科書の構成も、読みから書きにつなげるのが一般的である。しかし、読む指導から始めることだけが論理的思考力を養う効果的な方法なのだろうか。

私たちは説明的な文章を読むことに先立ち、上記の四つの観点を踏まえ、自らの文章を組み立てることで、説明的な文章を論理的に読み解く素地ができると考えた。また、書いた文章を四つの観点到に照らして互いに読み合うことで、文章を分析的に捉えさせることができると考えた。つまり、読む前に書く指導を行うことで、より効果的な学習をねらった。

また、こうした学習指導により、説明的な文章を形式段落ごとに読み進める従来の学習に比べ、文章全体の論理的な構成をより意識した読みにつながると考えた。このような手立てを用い、書くことに続いて読むことの学習指導を段階的に繰り返す過程で、論理的思考力が養われると確信する。

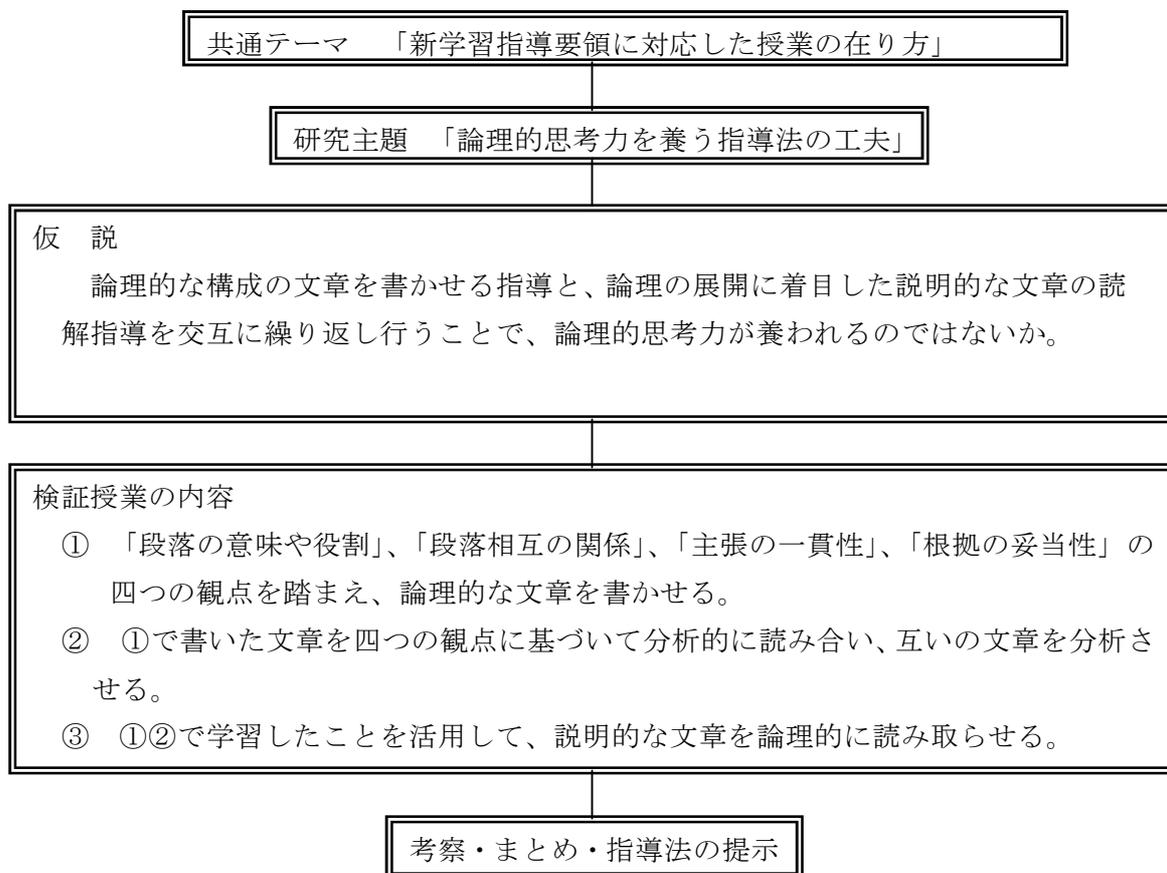
本研究では、次に示す仮説に基づき、授業で論理的思考力を養うのに有効な手立てを工夫することにした。

—仮説—

論理的な文章を書かせる指導と、論理の展開に着目した説明的な文章の読解指導を交互に繰り返し行うことで、論理的思考力が養われるのではないか。

III 研究の方法

1 研究構想図



2 研究の内容・主題に迫る手立てや工夫

私たちの考える論理的思考力とは、段落の意味や役割、段落相互の関係、主張の一貫性や根拠の妥当性を分析する力（分析力）と、段落の役割を考えて、話や文章を分かりやすく構築する力（論理構築力）である。論理的な構成の文章を書いたり、読んだりするためには、段落の意味や役割、段落相互の関係、主張の一貫性や根拠の妥当性を意識する必要がある。

そこで本研究では、論理的思考力を養うために、次の五つの手立てや工夫を考えた。

(1) 「論理的な思考力を養うための視点」の明確化

	視点	内容	新学習指導要領における指導事項
1	段落の意味や役割	段落の要点を捉え、意味や役割を考えると	<ul style="list-style-type: none"> 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。【(小)第3学年及び第4学年B(1)イ】 集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。【(中)B第1学年(1)イ】

2	段落相互の関係	段落の役割を考えて構成する（分かりやすく並べる）こと	<ul style="list-style-type: none"> 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、<u>段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。</u> 【(小)第3学年及び第4学年B(1)イ】 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、<u>文章の構成を工夫すること。</u> 【(中)第2学年B(1)イ】 社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、<u>文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。</u> 【(中)第3学年B(1)ア】 <u>論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。</u> 【(中)第3学年B(1)イ】
3	主張の一貫性	主張に一貫性をもたせること	<ul style="list-style-type: none"> <u>書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。</u> 【(小)第3学年及び第4学年B(1)ウ】 伝えたい事実や事柄について<u>自分の考えや気持ちを、根拠を明確にして書くこと。</u> 【(中)第1学年B(1)ウ】 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、<u>文章の構成を工夫すること。</u> 【(中)第2学年B(1)イ】
4	根拠の妥当性	適切な根拠を用いること	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたい事実や事柄について自分の考えや気持ちを、<u>根拠を明確にして書くこと。</u> 【(中)第1学年B(1)ウ】 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、<u>文章の構成を工夫すること。</u> 【(中)第2学年B(1)イ】 論理の展開を工夫し、<u>資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。</u> 【(中)第3学年B(1)イ】

(2) 根拠に妥当性をもたせる交流活動

自分の立場の根拠（理由）を、ブレーストーミングの手法を用いて1枚の付箋紙に一つの根拠を書くようにし、できるだけ多く出し合う。書き出した根拠を種類ごとに分類し、不適切な根拠を除いていく。さらに、グループの交流活動を通して根拠が適切かどうか、分類が正しいかどうかを確認する。そうすることで、根拠として適切なものを明確にする。

また、自分の主張に関する根拠が適切であるかを確認することで、主張に一貫性をもたせる。

(3) 双括型から始める作文指導

頭括型、尾括型、双括型等、文章構成には幾つかの型がある。本研究では主張の一貫性をより意識させるために双括型の作文を書かせる。双括型は、文章の始めと終わりに書き手の主張を書く。つまり、主張の一貫性について意識して書いたり、読んだりすることが、短い文章の中でも行いやすく、主張の一貫性を意識した学習活動を効果的に行うことができる。

(4) 分析的に読み合う交流活動

書き上げた文章を、(1)の「論理的思考力を養うための視点」を基にした次の四つの観点で読み合う。

① 段落の意味や役割は、はっきりしているか。

- ② 分かりやすい順序で書かれているか。
- ③ 主張が一貫しているか。
- ④ 挙げられている根拠は適切か。

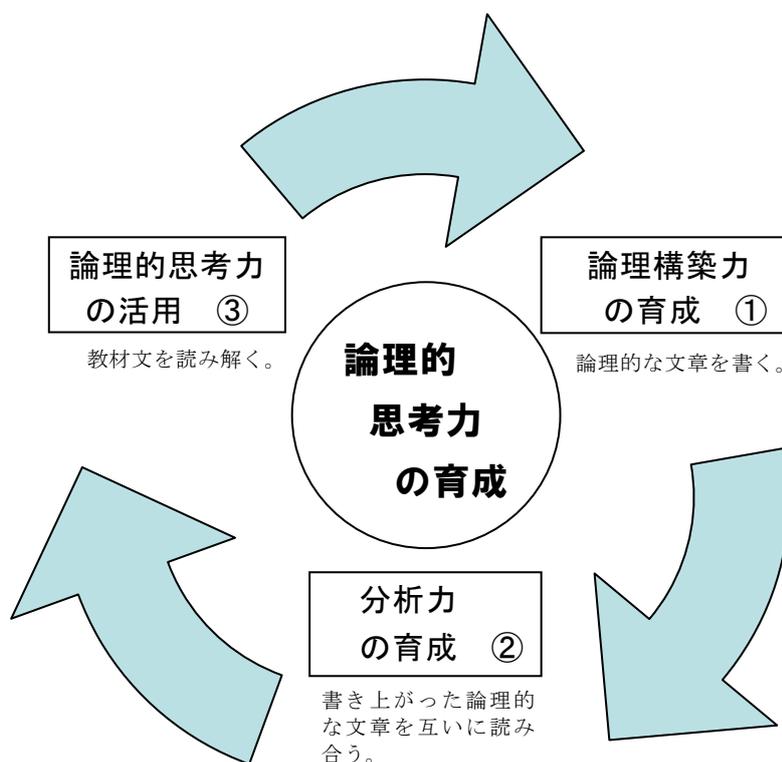
この学習を通して、生徒は自らの表現を分析的に捉える能力を育て、論理的に表現する能力を一層伸ばすことができる。また、相互評価での指摘によって改めて認識したことを基に、自分の表現の論理性を高めたり、論理的な見方や考え方を深めたりすることにつながる。

(5) 作文指導を基にした読解指導

「論理的思考力を養うための視点」を基に、読み解く作品と同じ文章構成の文章を書かせることで、作品の論理的な読み取りにつなげる。

3 仮説の検証

本研究では、論理的な文章を書くことから始め、文章を作成する過程で必要となる段落の意味や役割、段落相互の関係、主張の一貫性、根拠の妥当性を意識して教材文を読み取る学習過程を経て、そこで学習したことを更に書くことに生かすことにより、論理的思考力が育成されるという考えに基づき、次のような指導の手順で検証授業を行う。



文章を書く指導の過程では、相互評価欄を設けたワークシートを活用することで、書いた文章を分析させることができるようにし、生徒一人一人の思考の流れを確認できるようにする。また、授業前のアンケートや授業後の自己評価を実施することで、生徒の論理的な文章を書いたり読んだりすることに対する意識の変化を捉える。

この検証授業を分析・検討していくことで、本研究の仮説を検証し、成果と課題をまとめることとした。

IV 研究の内容

1 指導の実際（指導例：第2学年）

(1) 指導のねらい

論理的な構成の文章を書くために設定した四つの観点－「段落の意味や役割（段落の意味や役割ははっきりしているか）」、「段落相互の関係（導入・主張・根拠・例示・まとめ等を意識して、分かりやすい順序で書けているか）」、「主張の一貫性（主張が一貫しているか）」、「根拠の妥当性（挙げられている根拠は適切か）」－に基づき書いた作文を、分析的に読み合う中で論理構成の基礎を身に付けさせるとともに、身に付けた力を説明的な文章の読解に応用する指導を段階的に繰り返し行うことによって論理的思考力の育成を図る。

(2) 教材観

教材『モアイは語る ——地球の未来』安田喜憲（光村図書 第2学年）

本教材は「序論－本論（根拠）－結論（主張）」という構成で書かれた説明的な文章であり、文章構成は双括型である。また、本論の構成が結論（主張）の根拠として捉えやすいので、筋道の通った分かりやすい文章の構成として生徒が実感できるものである。「書く」学習から始め、段落相互の関係等の意識付けをされた生徒にとって、論理的に構築された文章がどのようなものかを理解するにはふさわしい教材である。

(3) 評価規準

観 点	ア 国語に対する 関心・意欲・態度	イ 書く能力	ウ 読む能力	エ 言語についての 知識・理解・技能
	① 意見を支える根拠となる事柄をできるだけたくさん挙げ、自ら進んで表現し、自分の表現に役立てようとしている。 ② 文章を論理的に書いたり読んだりする際に大切な四つの観点を意識して説明的な文章を読もうとしている。	① 自分の立場や根拠を明確にして、双括型の文章を書いている。 ② 書いた文章を互いに読み合い、文章を論理的に書いたり読んだりする際に大切な四つの観点について意見を述べたり助言をしたりしている。	① 論理的に構築されている文章を、根拠を明確にして意味段落に分けている。 ② 筆者の主張が論理的になされていることを読み取り、理解している。	① 文章を論理的に書いたり読んだりする際に大切な四つの観点を意識して説明的な文章を読もうとしている。

(4) 指導計画

時	各時間の目標	主な学習活動	評価方法
1	◆四つの観点を理解させ、根拠の妥当性を考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・例示した文章の問題点を考える。【資料1】 ・文章を論理的に書いたり読んだりする際に大切な四つの観点を知る。 ・テーマに対する自分の立場を決め、根拠を付箋紙に書き出す。【資料2】 ・書き出した根拠を分類し、グループで交流する。 	エ①…観察、発言 ア①…観察 ワークシート
2	◆四つの観点を意識して文章を書き、分析的に読み合わせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に書き出した自分の立場の根拠を基に、双括型の文章を書く。(300字程度) ・書いた文章をグループで読み合い四つの観点を基にして相互評価する。【資料3】 ・相互評価を参考に自分の文章を振り返り、問題点等を確認する。 	イ①…ワークシート イ②…観察 ワークシート
3	◆双括型の文章を書く上で身に付けたことを意識して、『モアイは語る』の段落分けをさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・前2時間の授業内容を振り返り、四つの観点を確認する。 ・四つの観点を意識して『モアイは語る』の授業者の読みを聞く。 ・『モアイは語る』を通読し、3段落に分ける。【資料4】 ・段落分けについてグループで話し合う。 ・段落分けとその理由をグループの代表者が発表する。 	エ①…観察、発言 ア②…観察 ワークシート ウ①…ワークシート
4	◆『モアイは語る』の序論と本論を読み、段落相互の関係を理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・序論から問題提起の部分を読み取り、全部で四つあることを知る。 ・序論の問題提起を基に本論を四つに分ける。【資料5】 ・本論の構成が序論の問題提起に対応し、段落相互の関係が明確であることを確認する。 	ア②…観察 ワークシート ウ①…ワークシート
5	◆四つの観点を基に、筆者の主張が論理的であることを確認させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・結論を読み、筆者の主張がどのような根拠に基づいているかを確認する。 ・筆者の主張をまとめる。 ・文章全体の構成を振り返る。【資料6】 ・『モアイは語る』が四つの観点到準じて書かれている説明的な文章であるということを確認する。 	ウ②…ワークシート ウ①…ワークシート エ①…観察 ワークシート

(5) 指導の展開例（第1時）

① 本時の目標：文章を論理的に書いたり読んだりする際に大切な四つの観点を理解させ、根拠の妥当性を考えさせる。

② 本時の学習と評価

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<p>○例文を読み、問題点を指摘する。</p> <p>○文章を論理的に書いたり読んだりする際に大切な四つの観点を理解する。</p> <p>○本時の学習内容と目標について確認する。</p>	<p>・黒板に短冊【資料1】を貼って注目させ、発見した問題点の数を確認する。</p> <p>・例文を訂正させ、そこから四つの観点を導き出す。出ないものがあれば補う。</p>	<p>・四つの観点がどのようなものか理解している。</p> <p>観察、発言（エ①）</p>
<p>○4人グループで四つのテーマを分担し、自分の作文のテーマを決定する。</p> <p>○自分のテーマに対する立場を決定し、その根拠をできるだけ書き出す。</p> <p>○自分のテーマに対する立場の根拠を分類する。</p> <p>○グループでワークシートを回し読みし、それぞれの立場に対する根拠の妥当性について考える。</p>	<p>・話し合い、またはジャンケンでテーマを分担させる。「田舎か都会、住むならどちらか」「飛行機か鉄道、旅行するならどちらか」等、テーマは二者択一とし、立場を決定しやすくする。</p> <p>・自分の立場を支える根拠をできるだけたくさん付箋紙に書き出させる。</p> <p>・付箋紙を2～3のまとまりに分けさせる。 【資料2】</p> <p>・妥当でない根拠や他に考えられる根拠がないかを考えてワークシートに記入するよう指示する。その際、理由を必ず述べさせる。</p>	<p>・根拠を付箋紙にたくさん書き出すことができている。</p> <p>ワークシート、観察（ア①）</p> <p>・適切に根拠を分類できている。</p> <p>ワークシート、観察（ア①）</p> <p>・他人の立場の根拠が妥当かどうかを考え、適切な理由を挙げて指摘できている。</p> <p>ワークシート、観察（ア①）</p>
<p>○本日の学習内容を確認する。</p> <p>○次時の予告を聞く。</p>	<p>・四つの観点が、文章を論理的に書いたり読んだりする際に大切であることを再認識させる。</p>	

(6) 指導の展開例（第3時）

- ① 本時の目標：双括型の作文を書く上で身に付けたことを意識して、段落分けをさせる。
 ② 本時の学習と評価

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<p>○前時で書いた文章を見直し、四つの観点を確認する。</p> <p>○説明的な文章『モアイは語る』の指導者の範読を聞く。</p>	<p>・前時で書いた自分の文章で、文章を論理的に書いたり読んだりする際に大切な四つの観点を確認させる。【資料3】</p> <p>・モアイ、イースター島、作者について簡単に説明し、四つの観点を意識して聞くことを指示する。</p>	<p>・自分の文章から四つの観点を指摘できている。観察（エ①）</p>
<p>○『モアイは語る』を通読し、形式段落に番号を付ける。</p> <p>○全文を3段落に分ける。</p> <p>○グループで話し合い、意見をまとめ、代表者が段落分けを発表する。</p> <p>○3段落の役割を確認する。</p>	<p>・段落分けの作業を行いやすくするために形式段落に番号を付けることを説明する。</p> <p>・以下の3段落に分ける作業を行うことを指示する。【資料4】</p> <p>① 主張に触れ、問題を投げかけている段落 ② 具体例を挙げ、主張の根拠となる段落 ③ 筆者の意見が書かれている段落</p> <p>・意見がまとまらないときは、グループ内で理由を発表し合い、グループの意見を決定させる。</p> <p>・前時に書いた自分の文章と比較し、「序論—本論（根拠）—結論（主張）」の構成になっていることを確認させる。</p>	<p>・四つの観点を意識して、『モアイは語る』を読むことができています。観察（ア②）</p> <p>・全文を3段落に分けられる。 ワークシート（ウ①、ア②）</p> <p>・段落の役割について理解している。 観察、発言（エ①）</p>
<p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>○次時の学習内容を知る。</p>	<p>・双括型の文章は序論に問題提起だけでなく、筆者の主張に触れている部分があるということを確認させる。</p> <p>・次時は序論、本論を詳しく読解していくことを予告する。</p>	

【資料1】第1時 導入 段落ごとの作文

◆ 導入では、これらの短冊を順不同で黒板に貼り、一貫性のある内容に並べ替える指導を行った。

私は先生が好きだ。

先生は生徒のことを大切にしている。

だから私は先生が好きだ。

先生は面白い話をしてくれる。

先生は学校の近くに住んでいる。

【資料2】第1時ワークシート

◆ 付箋紙に根拠を書き出し、その妥当性を生徒相互で評価した。

名	前	後	後	後	後
アドバース等 (ひとこと)	鉄道についてよく書いてある	よく考えたのと 思えます	素晴らしいと 思います	素晴らしいと 思います	素晴らしいと 思います
根拠は適切か	○	○	○	○	○
分類は適切か	×	×	×	×	×

鉄道の旅の利点

のんびりと旅ができる

途中下車ができる

目的地に、より近づけることができる

車窓が絶景のときがある

飛行機との比較

飛行機より料金が安い

飛行機より座席がゆったりとしている

飛行機より安全な旅ができる

3、他人を説得できるような根拠を挙げよう。

4、班員に聞いてみよう。

2、あなたの立場を決めよう。

1、担当テーマを決めよう。(自分が担当になったテーマの記号を○で囲もう)

A 冬と夏、どちらがよいか。

③ 鉄道と飛行機、どちらの旅がよいか。

C 給食と弁当、どちらがよいか。

D 田舎と都会、住むならどちらか。

特別単元 考える力をつける

単元の目標 「書くこと」と「読むこと」を通して考える力をつけよう。

本時の目標 自分の立場を支える根拠を挙げ、お互いにその根拠を吟味しよう。

プリントNo. 021

【資料3】第2時ワークシート

◆ 書き出した根拠を整理し、双括型の文章を書いた。

結論(15-17行目)		本論(4-14行目) 2段落										序論(1-3行目)					
と	以上	車窓	行く	る	る	だ	か	空	より	そ	に	僕	に	二	年	国	語
考	の	の	過	し	し	確	え	港	近	の	つ	は	つ	つ	単	特	別
え	こ	景	程	か	か	か	で	と	づ	根	い	鉄	鉄	元	考	考	考
る	と	色	も	し	し	か	、	を	け	拠	と	道	道	元	え	え	え
	こ	を	乗	し	し	に	さ	結	る	は	と	の	の	元	る	る	る
	と	満	し	た	た	に	ら	ぶ	こ	二	飛	旅	旅	元	力	力	力
	こ	喫	む	め	め	に	に	だ	と	つ	行	の	の	元	つ	つ	つ
	こ	で	た	に	に	は	目	が	だ	目	方	方	方	元	つ	つ	つ
	こ	可	は	は	は	は	的	飛	だ	地	か	か	か	元	つ	つ	つ
	こ	行	僕	僕	僕	僕	地	行	だ	に	よ	よ	よ	元	つ	つ	つ
	こ	く	は	は	は	は	に	機	だ	速	い	い	い	元	つ	つ	つ
	こ	る	鉄	鉄	鉄	鉄	に	に	だ	く	と	と	と	元	つ	つ	つ
	こ	も	道	道	道	道	飛	飛	だ	到	考	考	考	元	つ	つ	つ
	こ	そ	の	の	の	の	行	機	だ	着	え	え	え	元	つ	つ	つ
	こ	の	一	一	一	一	機	に	だ	す	る	る	る	元	つ	つ	つ
	こ	一	つ	つ	つ	つ	劣	劣	だ					元	つ	つ	つ
	こ	つ	だ	だ	だ	だ	事	事	だ					元	つ	つ	つ
	こ	だ					と	と	だ					元	つ	つ	つ
	こ						可	可	だ					元	つ	つ	つ
	こ						行	行	だ					元	つ	つ	つ
	こ						機	機	だ					元	つ	つ	つ
	こ						に	に	だ					元	つ	つ	つ
	こ						劣	劣	だ					元	つ	つ	つ
	こ						事	事	だ					元	つ	つ	つ
	こ						と	と	だ					元	つ	つ	つ
	こ						可	可	だ					元	つ	つ	つ
	こ						行	行	だ					元	つ	つ	つ
	こ						機	機	だ					元	つ	つ	つ
	こ						に	に	だ					元	つ	つ	つ
	こ						劣	劣	だ					元	つ	つ	つ
	こ						事	事	だ					元	つ	つ	つ
	こ						と	と	だ					元	つ	つ	つ
	こ						可	可	だ					元	つ	つ	つ
	こ						行	行	だ					元	つ	つ	つ
	こ						機	機	だ					元	つ	つ	つ
	こ						に	に	だ					元	つ	つ	つ
	こ						劣	劣	だ					元	つ	つ	つ
	こ						事	事	だ					元	つ	つ	つ
	こ						と	と	だ					元	つ	つ	つ
	こ						可	可	だ					元	つ	つ	つ
	こ						行	行	だ					元	つ	つ	つ
	こ						機	機	だ					元	つ	つ	つ
	こ						に	に	だ					元	つ	つ	つ
	こ						劣	劣	だ					元	つ	つ	つ
	こ						事	事	だ					元	つ	つ	つ
	こ						と	と	だ					元	つ	つ	つ
	こ						可	可	だ					元	つ	つ	つ
	こ						行	行	だ					元	つ	つ	つ
	こ						機	機	だ					元	つ	つ	つ
	こ						に	に	だ					元	つ	つ	つ
	こ						劣	劣	だ					元	つ	つ	つ
	こ						事	事	だ					元	つ	つ	つ
	こ						と	と	だ					元	つ	つ	つ
	こ						可	可	だ					元	つ	つ	つ
	こ						行	行	だ					元	つ	つ	つ
	こ						機	機	だ					元	つ	つ	つ
	こ						に	に	だ					元	つ	つ	つ
	こ						劣	劣	だ					元	つ	つ	つ
	こ						事	事	だ					元	つ	つ	つ
	こ						と	と	だ					元	つ	つ	つ
	こ						可	可	だ					元	つ	つ	つ
	こ						行	行	だ					元	つ	つ	つ
	こ						機	機	だ					元	つ	つ	つ
	こ						に	に	だ					元	つ	つ	つ
	こ						劣	劣	だ					元	つ	つ	つ
	こ						事	事	だ					元	つ	つ	つ
	こ						と	と	だ					元	つ	つ	つ
	こ						可	可	だ					元	つ	つ	つ
	こ						行	行	だ					元	つ	つ	つ
	こ						機	機	だ					元	つ	つ	つ
	こ						に	に	だ					元	つ	つ	つ
	こ						劣	劣	だ					元	つ	つ	つ
	こ						事	事	だ					元	つ	つ	つ
	こ						と	と	だ					元	つ	つ	つ
	こ						可	可	だ					元	つ	つ	つ
	こ						行	行	だ					元	つ	つ	つ
	こ						機	機	だ					元	つ	つ	つ
	こ						に	に	だ					元	つ	つ	つ
	こ						劣	劣	だ					元	つ	つ	つ
	こ						事	事	だ					元	つ	つ	つ
	こ						と	と	だ					元	つ	つ	つ
	こ						可	可	だ					元	つ	つ	つ
	こ						行	行	だ					元	つ	つ	つ
	こ						機	機	だ					元	つ	つ	つ
	こ						に	に	だ					元	つ	つ	つ
	こ						劣	劣	だ					元	つ	つ	つ
	こ						事	事	だ					元	つ	つ	つ
	こ						と	と	だ					元	つ	つ	つ
	こ						可	可	だ					元	つ	つ	つ
	こ						行	行	だ					元	つ	つ	つ
	こ						機	機	だ					元	つ	つ	つ
	こ						に	に	だ					元	つ	つ	つ
	こ						劣	劣	だ					元	つ	つ	つ
	こ						事	事	だ					元	つ	つ	つ
	こ						と	と	だ					元	つ	つ	つ
	こ						可	可	だ					元	つ	つ	つ
	こ						行	行	だ					元	つ	つ	つ
	こ						機	機	だ					元	つ	つ	つ
	こ						に	に	だ					元	つ	つ	つ
	こ						劣	劣	だ					元	つ	つ	つ
	こ						事	事	だ					元	つ	つ	つ
	こ						と	と	だ					元	つ	つ	つ
	こ						可	可	だ					元	つ	つ	つ
	こ						行	行	だ					元	つ	つ	つ
	こ						機	機	だ					元	つ	つ	つ
	こ																

【資料4】第3時ワークシート

◆ 双括型の文章であることを意識して『モアイは語る』を三つの意味段落に分けた。

二年 国語	特別単元	考える力をつける	プリントNo.	023
単元の目標	「書くこと」と「読むこと」を通して考える力をつけよう。			
本時の目標	『モアイは語る』を読んで三段落(序論、本論、結論)に分ける。			
1、「モアイは語る」を三つの段落に分けてみよう。				
構成	序論	本論	結論	
序論	序論 筆者の主張・ 考え・意見 (問題提起)	本論 主張を支える 根拠	結論 筆者の主張 (まとめ)	
段落分け	初め (13) ページ(5) 行	(13) ページ(6) 行 (134) ページ(19) 行	(131) ページ(5) 行 (134) ページ(20) 行 く終わり	
理由	「迫ってきた」と書いてあるから。筆者の意志が感じられるから。	イヌスター島の様子、まとめられているだけ	「ここから」とまとめた感じ、始まっているから。	
2、班の意見をまとめよう ◎参考になった友だちの意見をメモしよう。				
結論 135ページ6行 ↓ イヌスター島のことを述べていたのか、日本のことに話題が変わっているから。				
序論	初め (13) ページ(5) 行	本論 (13) ページ(6) 行 (135) ページ(5) 行	結論 (135) ページ(6) 行 く終わり	
3、段落分けについて感想を書こう。				
また、段落分けは一人ではできないと思う。けど、筆者の考えなりか、根拠を言っているのかは分かった。疑問点もなったりまとめだしたり段落が変わるということが分かった。				

【資料5】第4時ワークシート

◆ 内容についての読解をした。

二年 国語	特別単元	考える力をつける	プリントNo.	024
単元の目標	「書くこと」と「読むこと」を通して考える力をつけよう。			
本時の目標	『モアイの秘密』に対する答えとその根拠を見つけよう。			
1、序論の中から筆者が主張の根拠として注目している「モアイの秘密」を四つ書きだそう。				
秘密1	秘密2	秘密3	秘密4	
この膨大な数の巨像を誰か作ったのか。	大きな像をどうやって運んだのか。	どうして急にモアイが作られなくなったのか。	モアイを作った文明はどんなものだったのか。	
2、本論の中から「秘密」に対する答えと答えの根拠を見つけよう。				
秘密1	秘密2	秘密3	秘密4	
西方から島伝いにやって来たポリネシア人	ヤシの木をころとして使い、モアイも運んだ	イヌスター島火口湖の堆積物を分析したところ、当時の地層からヤシの花粉が大量に発見されたこと。	ヤシの消滅により、モアイを運べなくなったから。	
花粉分析の結果、ヤシの花粉量が七世紀頃から減少していること。	森が消滅し、食料危機に直面する中、部族間抗争が頻発。モアイ像は倒され破壊されたこと。	モアイの秘密が知れてよかった。自分で文章の中から探し出したのが嬉しい。		
3、今日の授業の感想を書こう。				

【資料6】第5時ワークシート

◆ 筆者の主張を捉え、主張の一貫性を確認し、文章全体の構造を図にした。

(裏面)構造図

二年 国語	特別單元	考ええる力をつける
単元の目標	「書くこと」と「読むこと」を通して考ええる力をつけよう。	
本時の目標	結論にある筆者の主張を読み取る。	
プリントNo.	025	

1、序論から筆者は何に對して問題意識をもっているか確認しよう。

2、結論から「1」で確認した問題意識が現れている部分を見つけよう。

3、イースター島の歴史と現在の地球との「共通点」をあげよう。

この絶海の孤島で起きた出来事は、わたしたちの住む地球の未来を考えるうえで、とても大きな問題も投げかけている。

イースター島のこのような運命は、わたしたちにも無縁なことではない。

文明が森林によって支えられている。

人口が急激に増加している。

食料不足や資源の不足が恒常化してくる。

食料や資源が不足したときどこからも運んでこられない。

筆者の主張

わたしたちは、今あるこの有限の資源をできるだけ効率よく長期にわたって利用する方法を考えなければならぬ。

2 説明的な文章の類型とその指導

主張の根拠となる部分や文章全体の構成を意識させながら書くことと読むことの指導を繰り返し、論理的思考力を育成するためには、いろいろな型の論理的な文章を書かせたり、説明的な文章を読ませたりする必要がある。ここでは段階的な指導を進めるために、現行の中学校国語教科書に収められている説明的な文章の教材を四つの観点から分類し、それぞれの観点について具体的な指導の留意点を以下にまとめた。

(1) 段落の意味や役割

説明的な文章は、「序論・本論・結論」の三つの役割をもつ意味段落で構成されていることが多い。初期の指導では、主張が結論にあり、その根拠が本論に述べられているという、大きな段落の意味や役割を意識させなければならない。しかし、それらの意味段落はほとんどの場合、複数の形式段落で構成されており、一つ一つの形式段落の要点を捉え、その意味や役割が理解できていないと、文章全体の構成も捉えにくい。

『モアイは語る』の場合でも、本論全体が筆者の主張の根拠となっているが、その本論を構成する小段落の役割は様々である。教科書教材の本論や結論における、小段落の意味や役割は次の六つに分類できる。

① 理由	前に述べたことの原因を述べている。
② 具体例	筆者の主張等について、具体例を挙げて説明している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 体験…体験したこと。 ・ 事実…聞いたこと・知っていること・調べたこと・引用 ・ 実証…観察・実験・調査したこと。 ・ 図……図表やグラフ等を用いた説明

③ 対立	筆者の主張等と反対の立場の意見を挙げて説明している。
④ 比喩	筆者の主張等について、比喩を用いて説明している。
⑤ まとめ	それまで述べてきたことをまとめている。
⑥ キーワード	文章中に使われている重要語句について説明している。

なお、教科書では、具体例（事実）を挙げながら説明している文章が多く、約65%を占めている。

(2) 段落相互の関係

文章全体の構成を考えたり捉えたりするには、上記のように段落の意味や役割を意識した上で、それらが相互にどのような関係になっているのか、考えなければならない。例えば、具体例が挙げられている段落については、それがどの段落のどの部分の具体例なのか、あるいは、どの段落からどの段落までが具体例なのか、いくつの具体例があるのか等について考えるということである。これらを意識させながら、書かせたり読ませたりする必要がある。段落相互の関係を捉える上で、効果的と思われる指導事項を二つ挙げる。

① 「問題提起→答え」の構成に着目させる。

序論や本論で挙げられた問題に答えていくという形で構成されている教科書の文章は、約28%である。

② 接続語に着目させる。

形式段落の始めに接続語が効果的に使われていて、複数の段落が結ばれている教科書の文章は約22%である。

(3) 主張の一貫性

説明的な文章における主張の一貫性を生徒に意識させるには、序論と結論に筆者の主張が述べられている双括型の文章が分かりやすい。書く場合も読む場合も、双括型の文章から始めて、それから尾括型や頭括型の文章に取り組みせるとよい。しかし、教科書に収められている説明的な文章のほとんどが尾括型で、双括型の文章は約15%、頭括型の文章は確認できなかった。説明的な文章を読解させる際には、前から順に読ませ、最後に筆者の主張を読み取らせる指導が多いと考えるが、その際にも主張の根拠が序論や本論にあることを意識させ、主張が首尾一貫していることを確認させたい。

また、尾括型の文章を書かせる際には、自分の主張を常に意識させながら、根拠となる材料を集めるよう指導していく必要がある。

(4) 根拠の妥当性

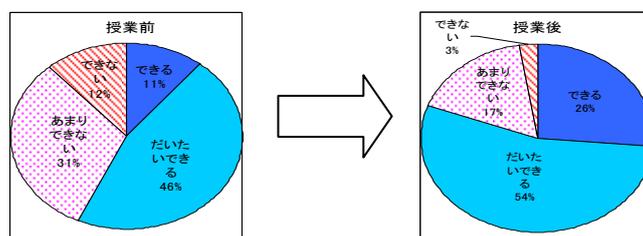
教科書の文章は妥当な根拠に基づき構成されているので、この観点は意識させにくい。しかし、根拠の妥当性を見極める力は、論理的思考力の育成に必須である。書かせる指導の機会を活用する等して、必ず確認させたい。

V アンケート結果

授業前と授業後に、以下の5項目について同じアンケートをとった。

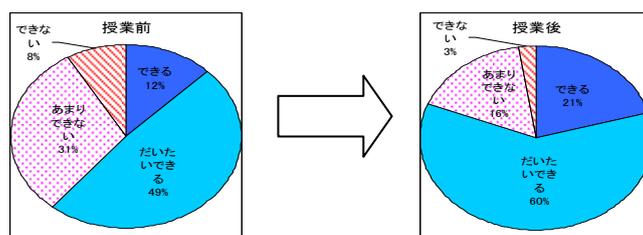
1 文章を意味段落に分けることができますか？

授業前は43%が「できない」「あまりできない」と答えていたが、授業後は80%が「だいたいできる」「できる」と答えた。



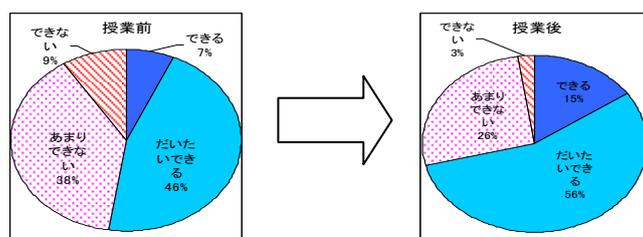
2 筆者の言いたいことを見付けることができますか？

授業前は39%が「できない」「あまりできない」と答えていたが、授業後は81%が「だいたいできる」「できる」と答えた。



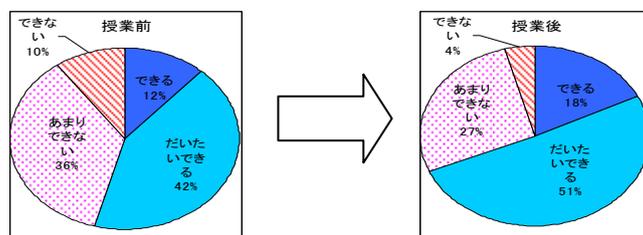
3 筆者の言いたいことの根拠を見付けることができますか？

授業前は47%が「できない」「あまりできない」と答えていたが、授業後は71%が「だいたいできる」「できる」と答えた。



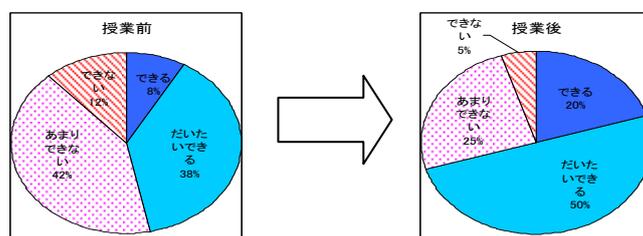
4 段落の要点を捉えることができますか？

授業前は46%が「できない」「あまりできない」と答えていたが、授業後は69%が「だいたいできる」「できる」と答えた。



5 段落の順番がどういう仕組みになっているか、理解していますか？

授業前は54%が「できない」「あまりできない」と答えていたが、授業後は70%が「だいたいできる」「できる」と答えた。



授業前に、説明的な文章を読むことに自信がなかったり、難しいと感じたりしていた生徒が、授業後は「段落の捉え方や筆者の伝えたいことがよく分かるようになった。」「文章の構成がよく分かるようになり、根拠を捉えられるようになった。」「意味段落を見分けるのが楽になった。」等の感想を書いていた。中には、授業前は「できる」「だいたいできる」と回答した生徒が、授業後「あまりできない」と回答し、「本当は理解していなかったことに気付いた。」という感想を書き、興味深い結果となった。

VI 研究の成果と課題

1 成果

本研究は、文章における段落の意味や役割、段落相互の関係、主張の一貫性、根拠の妥当性を意識させ、論理的な構成の文章を書かせる指導と、論理の展開に着目した説明的な文章の読解指導を交互に繰り返し行う中で、論理的な思考力を養うことを目的とした。得られた成果は次のとおりである。

(1) 段落の意味や役割を考えること

指導計画の第1時で行った短冊を用いた文章の問題点の指摘や、第2時の双括型の作文等で生徒は段落の意味や役割を考えながら学習に取り組み、理解した内容を説明的な文章の読解に生かすことができた。

(2) 段落相互の関係を理解すること

指導計画の第1時で行った短冊を用いた文章の論理構成上の問題点の指摘では、最初と最後にどの短冊を置けば、文章が不自然ではないかを生徒が自ら進んで指摘した。この学習を基に、第3時以降の説明的な文章の読解では意味段落、形式段落の要点を捉え、段落相互が関係して文章が成り立つことを理解した。

(3) 主張の一貫性を意識すること

双括型の文章を書くことで、生徒は主張が一貫している文章の具体について理解し、その後の説明的な文章の読解に生かすことができた。

(4) 根拠の妥当性を考えること

指導計画の第1時で行った自分の立場を支える根拠を付箋紙に書き出す作業により、生徒はなぜ自分がその立場を主張するのか多角的に考えた。この学習から、第3時以降の説明的な文章の読解では、筆者の主張の根拠について考えながら読むことができるようになった。

(5) 論理的な文章を書くこと

指導計画の第2時の双括型の作文で、生徒は段落の意味・役割・関係、一貫した主張、妥当な根拠を意識することが論理的な文章を書く上で必要であるということを理解した。

(6) 分析的に文章を読むこと

指導計画の第2時の作文の相互評価では、生徒が四つの観点を基に互いの作文を読み合い、相互評価することで、説得力のある文章というものを実感した。この学習から、第3時以降の説明的な文章においても、四つの観点を踏まえて分析的に読もうとする意識をもった。

これらの成果から、書くことと読むことは密接に関連しており、そのつながりを生かした指導を継続的に行うことが生徒の論理的思考力を伸ばすのに有効だということが分かった。

2 今後の課題

論理的な文章には、今回の検証授業で取り上げた双括型以外に頭括型、尾括型といった型がある。また、根拠の示し方も具体例、自らの体験、調査結果、自分と反対の立場について述べる、比喩を用いる等、幾つかの方法がある。これらを生徒に習得させる指導法を工夫するとともに、書くことと読むことを継続して指導することで論理的思考力を段階的に育成することが大切である。その際、本研究の「IV 研究の内容 2 説明的な文章の類型とその指導」等を参考にしながら学習段階に応じた教材文を活用する必要がある。

平成22年度 教育研究員名簿

中 学 校 ・ 国 語

地区	学 校 名	職名	氏名
大田区	大田区立糀谷中学校	主任教諭	澤柳 克也
八王子市	八王子市立横山中学校	教 諭	◎塩田 由紀子
三鷹市	三鷹市立第二中学校	教 諭	岩瀬 久芳
小金井市	小金井市立小金井第二中学校	教 諭	木村 周央
府中市	府中市立府中第八中学校	主任教諭	菅原 尚志
町田市	町田市立町田第二中学校	教 諭	○小飼 祐介
東京都	都立立川国際中等教育学校	主任教諭	成井 晴子

◎ 世話人 ○ 副世話人

[担当] 東京都教育庁指導部指導企画課 指導主事 三浦 慶介

平成 22 年度
教育研究員研究報告書
中学校 国 語

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成 23 年度第 46 号〕

平成 23 年 6 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 有限会社 シーダー企画
住 所 東京都新宿区西五軒町 7-10
電話番号 (03) 5228-3451